



ゆたかな感性をはぐくむドイツの幼稚園・保育所 園庭ビオトープ視察ツアー2008

視察企画 (財)日本生態系協会

後援 (社福)日本保育協会、(社)全国私立保育園連盟

2008年8月18日～8月24日の7日間、「ゆたかな感性をはぐくむドイツの幼稚園・保育所 ー園庭ビオトープ視察ツアー2008」を開催しました。

本ツアーには、幼稚園・保育所の経営者や教職員・保育士、研究者など、全国各地から23名の方々が参加しました。

子どものゆたかな感性をはぐくむため、日常的に自然とふれあえる場と機会を積極的につくっている、たくさんの幼稚園・保育所や関係施設を視察しました。いずれも、創造力をはぐくむ遊びを大切に、子どもたちの五感に訴えかける様々な工夫を行っていました。



フランクフルク州

教育青少年スポーツ省

「幼児期の子どもたちには、自ら遊びを発見できる環境を提供していくことが大切」、これはご説明いただいたディスコプスキー課長が強調していた言葉です。

ここでは、州における幼児教育の傾向、課題、支援制度などの全般的なお話とともに、自然教育の重要性や効果などについてうかがいました。



デトレフ・ディスコプスキー課長による説明を受ける参加者

園庭の切り株が大のお気に入り



アンネ・フランク幼稚園・保育所

子どもたちを自然と触れ合わせたい、という願いのもとに、町の協力を得て、広い自然の森に囲まれた幼稚園・保育所ができました。子どもたちは園庭の森で切り株などを使って、お友達と様々な遊びを創造します。

園舎の屋根には地域の野草を生やしています



雨の日も長靴をはいて
野外で遊びます



ハチも自然の一員





ヤナギの枝でつくった隠れ家



ハチを園庭に
呼び込むためのしかけ



園庭の周囲に散えて中低木を植えて変化をつけている



ゴミの分別箱（園の隣にある学校環境センターにて）

ガー十通りの自然保育園シティ

都市域にある幼稚園。保育の中に自然体験を積極的に取り入れたことにより、入園希望者が増えました。

園庭には、中低木を用いた小さな森、ヤナギ類の枝を用いた隠れ家など、子どもたちが自然とふれあえる工夫が随所に見られます。

さらに、隣にある市の施設・学校環境センターを積極的に活用し、そこでは幅広く幼児の環境教育に取り組んでいます。



園庭で木登りを楽しむ子どもたち

地域の草花に囲まれたエコラウベの休憩小屋



クラインガルテン「エコラウベ」

クラインガルテンとは、自宅に庭のない市民が、自治体などから一区画の土地を借り受けて庭づくりを楽しむ場所です。

エコラウベでは、特に野生の生きものに優しい、エコロジカルな庭づくりが行われていました。地域に元からある植物種にこだわって植栽するなど、野鳥や昆虫を庭に呼び込む、様々な工夫やアイデアがいっぱいでした。



石積みプランターに座るのがお気に入り



子どもたちのために園庭に設置された倒木

エマウス・オイルベルグ幼稚園・保育所

駐車場を取り壊し、みんなのアイデアと景観設計士の協力により、自然いっぱいの園庭づくりに取り組みました。この園庭では、①地域本来の草木ゾーン、②外国産の草木ゾーン、③作物ゾーンと分けて、緑地空間を設けています。

自然の草地と滑り台



ランゲフリュック地区フレーベル幼稚園

幼児教育の祖、フレーベルの考えを重んじ、「自然を生涯の教師とした」園づくりを行っています。園庭には、地域の自然の草地を再現した「昆虫の庭」など、感性をはぐくむための様々な工夫が見られました。

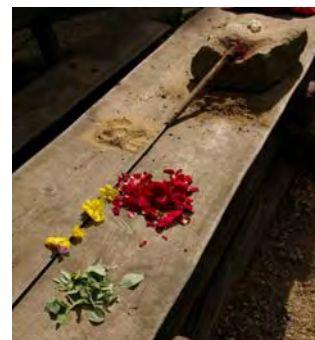
本ツアーの参加者も交じって
子どもたちとダンスを踊った



年長組には一人一区画
作物を育てる場所が与えられる



花びらや葉っぱで
色遊びを楽しんでいる





子どもたちの待つ森へ向かう本ツアーの参加者たち

ドレスデナー森の幼稚園

子どもたちは、雨の日も雪の日も、天候にかかわらず毎日森へ出かけて、遊びます。

8:30 に集合したら、「今日は何をしようか？」とみんなでも話し合って決めます。もちろん、自分の意見が通らないこともあります。これには、社会性や民主性を身につけさせる狙いがあります。

雪の日も野外で遊びます
(ドレスデナー森の幼稚園、視察時の説明資料より)



森に棲むダニについて子どもたちへ
教えるための小道具

森の幼稚園を駆け回る子どもたち





7日間という短い期間でしたが、たくさんの幼稚園・保育所や関係施設を視察できました。その中で、園庭ビオトープはもちろん、園舎や教材などの工夫についても学ぶことができました。

今回の視察先では、「自然の豊かな園庭は、子どもたちに自由に創造力あふれる遊びを提供する」というお話しが共通してありました。また、子どもたちや保護者と一緒に汗を流しながら、ゆっくりと時間をかけてつくっていく姿がありました。今なお、壁面の自然化など、野生の生きものと子どもたちとの出会いの場を設けるために、創意工夫は続けられています。

視察を受け入れてくださったザクセン州厚生省のライヒルトさんからは、「ザクセン州でも、まだすべて幼稚園・保育所で園庭ビオトープの価値が理解されているわけではありません。しかし、州としては、子どもたちの健康と豊かな感性をはぐくむことは、これからの時代にますます重要となってくるため、今まで以上に自然いっぱいの園づくりの普及に力を入れていきます。」というお話があり、印象的でした。

私たちの協会では、これからも自然いっぱいの素晴らしい取り組みがご紹介できるように、ドイツをはじめ環境先進国の幼稚園や保育所の取り組みについて、情報収集を行っています。ご要望があれば、個別に視察ツアーをコーディネートすることも可能です。お気軽にご相談ください。



全国各地から本ツアーにご参加いただいた皆さま（於：ドレスデナー森の幼稚園）